

第4回こどもはぐくみ推進本部会議録（要旨）

開催日時	令和6年12月10日（火）16:00～17:00
場所	真庭市役所 本庁舎 応接室
出席者	本部長（太田市長）、副本部長（伊藤副市長）、（三ツ教育長）、危機管理監（今石）、総合政策部長（木村）、政策推進監（牧）、総務部長（金谷）、生活環境部長（池田）、健康福祉部長（樋口）、産業観光部長（木林）、林業政策統括監（石原）、建設部長（美甘）、まちづくり推進監（川端）、会計管理者（今石）、教育次長（武村）、消防長（大美）、湯原温泉病院事務部長（西本）、議会事務局長（児玉）、蒜山振興局長（南）、北房振興局長（行安）、落合振興局長（大塚）、勝山振興局長（三浦）、美甘振興局長（安藤）、湯原振興局長（河島）
事務局等	子育て支援課（広岡、吉原、神庭、二宗、水島）
傍聴者	2名
議事内容	<p>《報告事項》</p> <p>①こどもはぐくみ応援プロジェクト2024 73事業の事業進捗状況について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span></p> <p>②こどもの居場所「公園等の検討事項」について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2</span></p> <p>《協議事項》</p> <p>①真庭市子ども計画(素案)について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4</span></p>
冒頭の事項	<p><b>本部長（太田市長）</b>：人口減少の中でどう未来を担うか、こどもにどう成長してもらうかが大きな課題。こどもをひとりの人格者としてきちんと位置付けて、単に親が育てるというわけではなく、こども自身を人格を持った一人の人間として位置づけて自らが育っていく環境、妊娠から安心してこどもを生むことができるための条件整備をしていく認識が必要。出生数が落ち込んでいる。こどもを生み育てたいのに生み育てる環境にないというような社会現象をどうなくしていくかを考えないといけない。青少年の自殺は世界で見れば相対的に低いが高くて異質な現象。日本は異常な数値。こどもにとって住みにくい社会現象を作り出しているのではないか。合計特殊出生率だけみれば韓国は1を割っている。韓国は進学を言われ、競争社会、大学も5つの中からの卒業でないと一流企業に就職できないというような生き苦しさがある。日本はそこまでではないが、こども、若者の生き苦しさを変えていかないとけない。</p>
①こどもはぐくみ応援プロジェクト2024 73事業の事業進捗状況について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料1</span>	<p><b>事務局</b>：特に新規事業等で進捗状況を共有しておくものがあればお願いしたい。</p> <p><b>副本部長（伊藤副市長）</b>：母子手帳アプリの利用者の皆さん方の反応はどうか。</p> <p><b>健康福祉部長</b>：10月にプレスリリースをした。本リリースは1月から。機能を限定し先行して実施している分の取りまとめについては、今後皆さんに共有したいと思っている。これまでの状況では、特に何か使いにくいとか云々というところまでは聞いていないが、ダウンロード状況等の意見についても取りまとめて報告をさせてもらう。</p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：真庭の今年の出生数はだいたいどのぐらいか。</p> <p><b>健康福祉部長</b>：令和6年の11月までの出生が166件。12月出産予定の妊娠届の数が18件ある。その通りになれば、18を足して184件ぐらいになるかと思う。去年が194件。</p>

**本部長（太田市長）**：自宅出産とかはどのくらいいるか。

**こども家庭センター長**：医療機関がほとんど。在宅は今年度も把握していない。基本医療機関で落合病院が約6割。それ以外の市外、津山近辺が25%ぐらい。あとは県南や蒜山だと倉吉など。

**本部長（太田市長）**：落合病院は真庭市民が多いと思う。蒜山は倉吉。津山や岡山、広島などはだいたい妊婦さんの実家近くが多いということか。

**こども家庭センター長**：選ばれる医療機関についてはそこまで把握できていない。

**本部長（真庭市長）**：問題は例えば1人目は広島県出身なら実家の広島で生むことも支障がないと思うが、2人目以降の時に小さいお子さんがいながら広島に連れて帰って生むのは大変だと思う。つまり地域に安心して生める医療機関がないと2人目以降を生むことになりにくいのではないかということの関連で質問した。

**こども家庭センター長**：2人目以降の時にも実家を選ばれる方は、実家で母親などからの支援を求められて選ばれると思う。ご主人や家族のいるところで出産できるのも必要とは思いますが、それぞれの家庭の選択、考え方ということになる。

**本部長（太田市長）**：もう一つ聞か、どこまでが異常分娩になるのか。定義が難しいと思うが、危険があるとかいうことも含めて、その辺の割合が増えているのか、減っているのか、その辺の傾向はどうか。

**こども家庭センター長**：未熟児の関係だと医療費の支援事業をやっていて、その申請の傾向から見れば最近は少なめではある。ただ、年によっても違うし、あと多胎出産の場合は未熟児の医療を受けられるケースも多いので、傾向として増えているか減っているかいうところまでは断定できない。

**本部長（太田市長）**：今年の多胎出産の傾向はどうか。

**こども家庭センター長**：1件か2件ぐらいだと思う。

**本部長（太田市長）**：不妊治療で生まれる場合、多胎が多いとか傾向があるのか。

**こども家庭センター長**：不妊治療も助成事業をやっており、申請はそこそこ出てる中で多胎かといえば最近はそのような認知はない。

**本部長（太田市長）**：結婚、出産世代の方々の日常の意見を聞くような仕組みはあるか。

**健康福祉部長**：市長も参加していただいた子育て世代の方々との座談会を行った。高校生世代については、今後意見を聞くような場を設けていかないといけないし、こども家庭庁の中でも機会を設けている部分もある。12/27実施予定のユース座談会にも、こども家庭庁からも話を聞きたいという話がある。その世代の意見を聞くことは大切だと思うので作っていく必要はあると思う。

**本部長（太田市長）**：地方創生の関係で、こども子育て関係も意見を聞く場を常設するようなことをしたらどうか。

**健康福祉部長**：常設がいいかわからないが、フランクに意見交換できる場所は考えていく必要があると思う。マトリクス会議で可能性を議論しながら、どういう形がいいかを考えていければと思う。

**副本部長（伊藤副市長）**：ここは市の政策の方向性を議論する場なので、市長が言われる意見聴取は、いろいろな方法でこれまでもやってきてるし、市長がご提案されたよう

なことも、考えていければいいと思う。当事者の方のご意見はぜひお聞きする必要がありと思うのでやっていきましょう。

**本部長（太田市長）**：産業界との関係はどうか。女性が働きやすい、こどもを生み育てるために産業関係での情報はどうか。

**産業政策部長**：商工会で来年度事業の話をしている中では、女性の働きやすさ、子育て世代の働きやすさのセミナーの話をしている。経営者の意識が変わらないと何も変わらないので、そこと連動して事業できればと思っている。

**本部長（太田市長）**：子育て支援課での企業関係とはどのような状況か。

**事務局**：今年度も今年3月にしたような企業との座談会を3月に実施を予定としている。産業政策課で今年度取り組んでいる事業の結果等を参考にしながら、どういった企業に声かけをしていくか検討している。

**本部長（太田市長）**：全国的に、労働行政で、子育て環境の条件がいい企業を表彰するとか、そういう企業が伸びてるとかの資料もあると思う。真庭の場合、企業も小さくまだ認識が低いのではないか。条件の良い企業が業績が伸びてる、あるいはそういう支援があるという認識をしてもらうことが必要ではないか。

**産業政策部長**：今年度実施している事業で全国での取り組みを調べて真庭ならどうすれば取りやすいかを調べて、来年、企業に展開できればと思っている。それを3月の座談会の時に発表する流れになると思う。

**本部長（太田市長）**：真庭市も企業だが、そういう水準はどうか。

**総務部長**：こういう地域にあっては、市役所の職員は子育ての環境は整っていると思う。ただし、仕事が忙しく夜遅くなることもあるが、育児休業も取れる制度になっている。あとは仕事の忙しさをどうするかというところだと思う。

**本部長（太田市長）**：完全週休2日の企業はどのぐらいか。真庭は少ないのではないか。

**副本部長（伊藤副市長）**：今は人手不足。経営者と話をしても、そのあたりは改善しないと人が来ないという問題意識は持たれている。少しずつ改善されつつあるが、週休2日制を導入している企業の割合は都市部に比べれば低いと思う。特に製造業が真庭の場合が多いので週休2日に完全にすればラインを止めないといけなくなる。

**本部長（太田市長）**：建設業はどうか。

**副本部長（伊藤副市長）**：建設業は入札の条件になっている。

**建設部長**：働き方改革で週休2日にすれば経費があがり2倍ぐらいになる。

**本部長（太田市長）**：建設単価を計算する際は、週休2日を前提にしているということか。

**建設部長**：そのとおり。

**副部長（伊藤副市長）**：県が子育てに配慮した企業の登録制度や表彰制度をしているので県と連携して企業への働きかけをしっかりとやっていきましょう。

**本部長（太田市長）**：社員食堂がしっかりしてるところの企業は伸びている。これは本当に面白い。市役所ではお昼の時間も来客対応しており、本当にありがたい。原則的に窓口対応はしないといけませんが、みんなが集まって食事ができる場のような対話の成り立つ職場が本当は必要。その辺考えてもらえないか。

**総務部長**：総務で呼びかけて、お昼時間に体操をしている。ヨガマット持って行って、1階や3階で集まって20分体操など。集まるのは女性が多いが、話をしながらやっている。喫煙所などで情報交換するのは必要だと思う。公民館をそういう場にできるよう、複合化施設の検討の中で、案の一つとしてカフェを検討中。

**本部長（太田市長）**：山陽新聞が一番上が社員食堂。岡山県庁は地下が社員食堂、今度岡山市役所が開庁してどうするか。

**副本部長（伊藤副市長）**：岡山市役所は結局食堂を諦めた。

**本部長（太田市長）**：里山留学はどうなっているか

**副本部長（三ツ教育長）**：今、小学校6年生が一人来ている。来られた子も元気で過ごしているし、地域のこどもたちが混ざって育つ、他の価値が入るのでとても喜んでいる。次年度は今の予想ではまだ確定していないが2人来てくださるという方向だがまだ正確な情報ではない。

**本部長（太田市長）**：里山留学はどうしたら増えるか。長野県など先進地は結構ある。

**総合政策部長**：近くだと成功してるのは岩国など。長野県は、今うちがやってるようなホームステイ形ではなく、寄宿舎がありそこに入るというもの。岩国も同じような感じ。どういう形がいいのか、探りながらやってる。同じことをやっても多分難しいと思う。

**副本部長（伊藤副市長）**：市営住宅のリノベーションの状況はどうか。

**まちづくり推進監**：年内でほぼ完成する予定。貸し出す条件を内部で協議をしている。和室を洋室に変えたり、アイランドキッチンに変えるなど若い方に喜ばれるようなリノベーションになると思う。

**本部長（太田市長）**：いろいろなところの市営住宅が空いてると思うが、そこを戸建て住宅に改造するなどとは考えられないか

**副本部長（伊藤副市長）**：まちづくりの方で民間とコラボした民間住宅はある。

**建設部長**：市営住宅はたしか空きはない。老朽化で空いたところは取り壊している。

**まちづくり推進監**：デザインには流行がある。建物構造的には耐震改修がいらぬ建物のはわかったので、どうしていくか今後検討する。

**本部長（太田市長）**：木材をうまく使うことはできないか。

**まちづくり推進監**：現在、サウンディングをしている。業者の方に建物を任せていく方法も含め、いろいろと検討させていただく。

②こどもの居場所「公園等の検討事項」について

資料2

**事務局**：第3回こどもはぐみ推進本部会議で、こどもの居場所について話し合いをした時に、課題が見え、既存の公園の今後の方向性や情報発信、全天候型の遊び場の整備について、どういう部署で調整をしていくかが明確でないということが課題だったので、資料2のとおり調整したので共有する。まちづくり推進課で、公園と遊具の全体把握をするための取りまとめしていただき、それがまとまってから、子育て支援課で情報発信をする。来年度に向けて予算要求をしている。

**まちづくり推進監**：市が直接財産管理する場所が今回106箇所あった。駐車場の台数、遊具の有無、遊具は何があるかなど細かいところまで調べている。トイレについては男女別があるか、こどものトイレがあるかなどすべて網羅できるようにかなりのデータ量を各管理部署に依頼中。年内を目処にお答えをいただきなるべく早い段階でこの会議に資料と

して提供させていただく。

**本部長（太田市長）**：トイレは犯罪の問題なども関係するがその辺はどうか。

**まちづくり推進監**：エスパスの外にトイレがあり、20年ぐらい前だが、建設を担当した際にいろいろ聞いた話だが、多目的トイレは不純性行為の場になるというのは聞いている。夜トイレには鍵をかけるという話を聞いているので、そのあたり、どこまでプライバシーに配慮しながら、オープンにできるかが非常に難しい問題だと思う。

**本部長（太田市長）**：善意で作る、それで子どもが被害を被ったら本当に大変な問題。だから難しい。しかし、そんなことを言っていたら何もできない。

**副本部長（伊藤副市長）**：情報発信を、連携してやっていきましょう。まだ市民の皆さん方がご存知ないところが大きな課題。また、市長もこの前の議会で言われたとおり、全天候型の部分は新しいものを考えていいが、既存の振興局や図書館をうまく使えるようなソフト事業、例えばちょっとした遊具を置くとか、そういうことをぜひ振興局を中心に考えてもらいたい。

**本部長（太田市長）**：要望があるから議会でも、それを中心に議論した。不便なところだから使えない、施設が古いとかあるかもしれないが、見る限りいっぱいある。休みの日に使ってもらいたい。その辺の広報のあり方はどうか。

**事務局**：公園も含めた居場所全体の周知をこちらで考えていこうと思っている。

**本部長（太田市長）**：中央図書館に時々行っても、幼児の木のおもちゃ置いてるところも残念ながら少ない。風のパレットにしても寂しい。蒜山全体で考えるよう局長へお願いしたい。塩釜を越えたら途端に車がなくなる。いい場所あるのにもったいない。それからアーケード。米沢町とか。全天候型で使えないかと思う。墨田商店の前とか。

**総合政策部長**：久世のアーケードはまだ明かりが入るが米沢町や中町は暗い。

**本部長（太田市長）**：町の実情が取れば日曜日の一部時間は車の通行ができないようにして、その間は子どもの声がするようなイベントを開催するとか。そういう街づくりの話、今までにないことを考えたい。

**副本部長（教育長）**：ハードとか、空間という意味では、大事だと思うが、居場所は必ずしも公園や建物があるとか空間があるということではないと思う。市長が仰ったように、場合によってはその場所が生まれたり生まれてない時があってもいい。子どもにとっての居場所は、公園もちろん大事だと思うが、自分がやりたいことがやれたり、工夫してチャレンジできたり、見守られたりというような場所が大事だと思う。例えば山や川や道端で居場所作る場合もある。そういうことは、運動として大事だと思う。それが公園などということで検討されるのであれば、それはそれでいいと思う。

**副本部長（伊藤副市長）**：教育長が言われるとおり、両方バランスよく整備していくこと、選択肢を多くすることが大事だと思う。

**政策推進監**：最近視察に行った全天候型の施設を紹介だけさせていただく。鹿児島県の始良市の「ちるどん」という施設。施設内に一時預かりから相談、室内の広いところに遊具が無料。公共的な色合いが強く、多分財政的にも良いので無料で使える。20人近く職員がいる。まねはできないが、機能としては非常に参考になる。もう一つは、山形県の鶴岡サイエンスパークにある「ソライ」。ここは遊具のあるドームの施設で民間が出資をして作っている。一人1500円。小さい子は無料の分もある。一時預かりの面で行政

が協力支援をしている。文具とかそういった支援を企業がしている。我々久世校地とか複合化を目指すにあたっては、こういう機能もあった方がいいのではとアイデアとして持っていて、いろいろな可能性を探りながら検討していきたい。

**本部長（太田市長）**：久世校地に夜遅くまでカフェとして機能する、商売に競合しないような場があれば。真庭の場合、あまりにも夜が早い。若い人たちが 22 時ぐらいまで居られるような、コーヒー飲みながらとか音楽を奏でるとか、軽く運動できるとかそういう場があってもいいのではと思う。

**副本部長（伊藤副市長）**：現在サウンディング調査を進めている。大人の居場所を。

**政策推進監**：カフェは聞か話では滞在時間が長く、例えば 1000 人で 10 人に 1 人が寄ったとして 100 人。100 人では営業が成り立たない。夜の営業で営業時間が伸びれば、スタッフが回らないということもある。カフェを軸に運営できる、人が滞在できる場所にしていけるような形で進めている。

**本部長（太田市長）**：いろいろな預かりでも無料という話があったが、無料である必要はないと思う。無料でない人が来なければ作っても意味がないが、子育て世代の負担のないようにという議論はすればよいが、無料である必要はない。都市部だと英語の学童は完全に有料。市の学童に行かずにそっちに行く。全部無料である必要はないと思う、その辺の議論はしたらいいと思う。質がよいものを作った方がいい。

**政策推進監**：基本的に久世校地の組織自体は家賃で運営していく予定。行きたければ有料というのがいいと思っている。

**本部長（太田市長）**：都市のビルのプランニングでも全部有料。それから勝山で作ったバスケットゴールも、条件が合えば移動式で倒れないようにできればほかの所にも作ってもいいのではないか。例えば湯原など需要があれば、要望だけではなく、需要も調査しながらつくっていければ。

**勝山振興局長**：バスケットの需要ニーズはあると思う。今のゴールが大人用なのでこどもが利用するには厳しいところがある。可能なら増設したい。

**本部長（太田市長）**：こども用も高いものではない。管理費用もない。

**勝山振興局長**：基準がある。今設置しているものより約 50cm 低くなる。

**本部長（太田市長）**：需要があるなら、それを置いても構わない。久世も需要があれば置いても構わない。例えば岡山市に情報を流して、こちらに来るとなればお金も落ちる。真庭市の人口だけで考えるのではなく、外から人が来て賑やかな方がいい。基本は真庭のこどもの居場所だけれど、真庭以外の人も来ることで、にぎやかな場所を作っていくことも考えてほしい。

**副本部長（伊藤副市長）**：魅力があれば、市外の方のほうがアンテナが高いので来ると思う。紅葉公園などは倉敷ナンバーの車が多い。

**本部長（太田市長）**：それでは、こどもの居場所については子育て支援課中心にマップを作り周知していき、今のようないろいろなアイデアを出しながら真庭の人が集まり、真庭のこどもたちも楽しいということを幅広く考えていきましょう。

**事務局**：マトリックス会議等でも、検討していく。

《協議事項》

① 真庭市こども計画

**事務局**：～真庭市こども計画（素案）について説明～

**本部長（太田市長）**：「子育ての支援や環境の満足度」が低いことに驚いた。何がそ

(素案) について

資料3

資料4

んなに低いのか。

**副本部長（伊藤副市長）**：これはアンケートとしてどうなのかということもある。普通という選択肢があれば、それを選ぶ傾向は出るかもしれない。

**本部長（太田市長）**：普通というか、満足してないのかどうか。

**副本部長（伊藤副市長）**：受け止め方がものすごく幅が広がってしまう。一定程度いいと考える不満はない人は、普通を選択する可能性はある。

**本部長（太田市長）**：そういう例えならかなりいい結果だが、評価されてないというふうには私にとらえた。

**政策推進監**：真庭市にはスポーツなどの習いごと選択肢が少ないので、岡山市などと比べて満足してるかどうかなので、満足はしてないが、諦めて住んでいる。ないものとして住んでる。普通という感覚はすごくわかる。

**副本部長（伊藤副市長）**：真摯に受け止めないといけないが、過去のアンケートと対比しての傾向がどうなるか。そういう分析をしておかないといけない。この普通というのがどういう思いを持って選択されてるか。それによってかなり傾向が出てくる。

**本部長（太田市長）**：一般的に言うと、岡山でいえば集積のメリットとデメリットがある。メリットとしては、こども関係の施設、家とか、職場も距離が近い。真庭の場合どうしても離れてしまう。ただ、交通渋滞があまりない。放課後児童クラブの総合的満足度を見ると普通を良いという肯定的に見ると満足度が高い。

**副本部長（伊藤副市長）**：「現在の生活の満足度」は非常に高い。先ほどの子育て環境と比較すれば、生活そのものについての満足度は6割近くが満足している。

**本部長（太田市長）**：普通をどう考えるか。

**副本部長（伊藤副市長）**：普通までのゾーンの方が生活の満足度と、子育て関係の満足度と、ほぼ同じぐらいの比率と思う。満足度の中身、生活の満足度よりも、子育て環境の満足度が低いのかもしれない。放課後児童クラブの満足度が高い。

**本部長（太田市長）**：児童クラブについて、施設は作るが運用面で大変手間がかかるという声を聞くが、児童クラブの指導員の充実はどのような状況か。

**子育て支援課長**：支援員不足はかなり深刻である。誰でもいいわけではなく、よく知った方をお願いしたいとか、各クラブもなかなか見つからないという話を聞く。

**本部長（太田市長）**：指導員になってもよいという方の名簿などはないか？

**子育て支援課長**：今はそういう名簿はない。

**本部長（太田市長）**：一定の潜在名簿を作成したほうがいいと思うがどうか。

**健康福祉部長**：以前、人材関係の方から先行事例の話聞いたが、登録制度を作ってもなかなか機能しないということ。やり方の問題があるとは思いますが、ただ、今これだけ苦労している厳しい状況の中、情報を集約することはあってもよいように思う。

**副本部長（伊藤副市長）**：政策の方向性としては岡山市も、こども園関係の環境整備の次の課題として放課後児童クラブのニーズが高くなってきていて、多分真庭市でも放課後児童クラブに対するニーズへの対応は大きな課題になってくると思う。支援員の確保も含め、重点的にやっついていかないとけないと思う。

**政策推進監**：事務局に聞くが、こども・若者・子育て家庭を取りまく課題は、課題の重要度の順番で示しているのか。これだけデータを揃えているので、このデータを問題と捉え

たうでこういう結論になったというものが欲しいがどうか。

**事務局**：この課題は重要度の順番ではなく、施策の柱に合わせた形で整理をしている。

**副本部長（教育長）**：中身がどうかということではなく、願いということで聞いてほしい。例えば基本理念に子ども大綱が目指す「子どもまんなか社会」ということがあり、身体的、精神的、社会的に幸福な生活を送ることができる社会ということが謳われている。全くその通りだと思うが、この精神的幸福度というのが日本では大きな課題になっている。ユニセフ調査で38か国中37位。この精神的幸福度を真庭にあるものを活かして、どう上げていくのが大事だと思う。そう考えたとき、保護することや与えるということは大事だが、子どもたちが能動的に活動する遊びなどが大事だと思う。真庭市が他の市と同じではなく、中山間地域で山や川があり、かつては森の日という取り組みなどもあって、秀逸だと思っていた。津黒ふれあいの里で、いろいろな遊びの機会が持たれるという、真庭にある自然を生かして、子どもたちが能動的に関わる場を作っていくようなことが、精神的幸福度を上げるには大事だと思う。どこかに記載するかではないが、真庭らしさも出てくるといいという思いでお伝えする。

**本部長（太田市長）**：真庭らしさは出してほしい。その取り組みが大変かもしれないが、他の農村部でもできるが、都市部ではできない。総合計画はまさにそれで、真庭ライフスタイルの実現、東京ではできない真庭の豊かな生活はこういうことなんだということ。そういう意味で子育ても都市部ではできない、お金ではできないようなものが魅力だと思う。それを出してほしい。例えば、川遊びも保護者との体制を組めばできると思う。大都市にはない小川のような水量の少ないところであればそれほど危なくはないし、水はきれい。津黒などももっと利用してもらいたい。津黒のふれあい館やはんざきセンターなどもつたいないと思う。

**副本部長（伊藤副市長）**：「自然生かす」という記載がある。今のような考え方を踏襲するような形にしたらどうか。「地域資源を活用した学び」のあたりを今の意見を反映して真庭らしさを出したらどうか。

**事務局**：郷育、真庭の自然や風土の中で、体験や経験を通じてというような、書きぶりも入れている。この計画とは別冊で来年度取り組む事業も示していく予定。そこで特に強調できるものは入れていきたい。

**本部長（太田市長）**：「在留外国人家庭の支援」について、非常に数も少ないが弱い部分。旅行客の英語対応の問題など国際化対応が必要。

**副本部長（伊藤副市長）**：国際化対応は組織の中で、健康福祉部だけではなく、市役所全体として国際化対応をどうするかをこれから考えていく。

**本部長（太田市長）**：イタリアから高校生が一月間真庭へ来て勝山高校などと交流したがどうだったのだろうか。私は相当刺激を受けていると思う。留学もいいがアウトバウンド、インバウンド両方ともいいが、来た人との機会を作っていくとかは組織の問題。職員についても、他の仕事もそうだが組織としても個人としても水準を上げていくことが大事。余裕がないということもある人が研修や勉強できるような会など、職員からそのような意見はないか。子育てに限らず今勉強したいなど。

**総務部長**：職員のスキルアップのための資格取得制度もあり、資格を取りたい人は利用

	<p>しているが、利用者が偏っている部分がある。<u>もっと広く活用してほしいので周知をしてい</u> <u>かないといけない。</u></p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：<u>今出たような意見を反映させながら、子ども・子育て会議でも</u> <u>意見をもらいながらよいものを作っていきますよ。</u></p> <p><b>こどもはぐみ担当課長</b>：<u>今後、1月中旬から2月にかけてパブリックコメントをする。そ</u> <u>れまでにご意見等あれば、子育て支援課の方にお寄せいただきたい。</u></p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：正月休みに、子どもや孫が帰ってくることもあると思うので、どうし たら真庭に帰る条件を作れるのかというようなことも含めて話を盛り上げてもらえたらありが たい。</p>
閉会	<p><b>副本部長（伊藤副市長）</b>：<u>このこども計画がこれから5年間、真庭市の子育て支援</u> <u>の基本的な計画になる。それぞれの部署で関係する部分について、もう一度内容を検</u> <u>討していただきたい。また、真庭市は先行する形で予算事業としてはぐみプロジェクトを</u> <u>進めている。それとの整合性も考えていけない。このこども計画の内容をベース</u> <u>にしながら、来年度のはぐみプロジェクトの具体的な内容についても、これから予算編成</u> <u>作業を入れていくので、保護者やこどもの姿勢に立ってより効果的な事業を考えてけれ</u> <u>ばと思う。</u></p> <p><b>本部長（太田市長）</b>：フジアーナやバスケットも含め、選手などに来てもらえるようなこ とも考えてほしい。</p>
<u>確認事項</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・こどもはぐみ応援プロジェクト 2024 の事業進捗状況について共有し、来年度に向けた方向性を確認した。</li> <li>・こどもの居場所である公園等の把握状況、今後の周知について共有した。また、こどもの居場所の整備について意見交換を行った。</li> <li>・こども計画について、素案の内容について意見をいただき、パブリックコメントに向けた修正の方向性を確認した。</li> </ul>